



1



2



3

誰にでも居場所と出番がある包摂社会へ
認定 NPO 法人 **ビッグイシュー基金**
第 9 期 (2015 年 9 月 ~ 2016 年 8 月)

年次報告書



4



5



6



7

① 川柳講座@東京定例サロン ② 第 2 回ダイバーシティカップ～1つのボールが人生を変える～ (photo: 横関一浩) ③ ギャンブル依存症問題研究会
④ 『「市民が考える！若者の住宅問題 & 空き家活用」シンポジウム報告書』、ダイバーシティカップ報告書、『疑似カジノ化している日本』、『ギャンブル依存症からの生還—回復者 12 人の記録』 ⑤ 夜回り ⑥ 第 7 回大阪ホームレスクリスマスパーティ (photo: 中西真誠) ⑦ 各地の『路上脱出ガイド』

- 03 はじめに——現場から広がった9年間の活動
- 04 「自助型の応援」と社会への発信
——活動概要
- 05 つながって生きる
——生活自立応援プログラム
- 05 ・何があっても大丈夫
——当事者への情報や交流機会などの提供
- 06 ・暮らしを取り戻す
——健康・住宅・法律・金銭管理など相談活動、被災地応援
- 07 ・仕事がしたい
——仕事・就業応援プログラム
- 08 ・生きていてよかった
——スポーツ・文化活動プログラム
- 10 **生きやすい社会をととのえる**
——ホームレス問題解決の実践的ネットワークと政策提案
- 10 ・暮らしの基盤をつくる
——住宅政策提案事業とステップハウスの実験的事業
- 11 ・新しい仕事をつくる
——若者をホームレスにしないために
- 11 ・依存症からの脱却
——ギャンブル依存症問題の調査・提案事業
- 12 ・ダイバーシティカップ（スポーツによる社会的包摂の空間づくり）
——人と人がつながれる社会性スポーツの展開へ
- 13 **市民が社会をつくる**
——ボランティア活動と市民参加
- 15 **ありがとうございました**
——市民・組織・団体・企業のご協力とご参加
- 16 **決算報告**
- 18 **社会を変えるのはあなたの寄付です**
——会員・寄付制度について
- 19 **誰にでも居場所と出番のある“包摂”社会をつくる**
——ビッグイシュー基金とは



はじめに——現場から広がった9年間の活動

2007年9月にはじまった基金の活動は、いま、9年間の活動を終えることができ、10年目という節目を迎えようとしています。これも、ともに活動してくださったあなたさまはじめ、多くの市民のみなさまのおかげです。ありがとうございます。

激動の中で続けた活動

ふりかえれば、基金設立の1年後の9月にはリーマンショックによる世界的な経済の危機がありました。それ以降、日本をはじめ先進資本主義諸国の経済は停滞、資本主義の限界が指摘される状況となり、経済的格差が拡大し続け、政治的にも6,500万人もの難民を生む不安定な状況になっています。日本でも路上生活者は6,235人に減りましたが、格差の拡大による貧困は子ども、若者、女性、高齢者などに広く深く及んでいます。このような激動下で、基金は9年間の活動を続けてきました。

基金の立ち上げ期に社会的にもインパクトがあったのは、若者ホームレスの増加に対応して『路上脱出ガイド』を発行したこと、ホームレスサッカーでワールドカップ・ミラノ大会へ「野武士ジャパン」を派遣したことなどでした。

今では『路上脱出ガイド』は大阪を皮切りに、札幌から熊本まで7都市で発行し、路上生活者以外の人々にも対象を広げた『ホームレス化予防ガイド』に進化しようとしています。また、「野武士ジャパン」の活動はパリ大会参加を経て、ホームレスの人以外のうつ病、LGBT、ギャンブル依存症者、難民、などのスポーツの機会に恵まれない人々が寄り集う「ダイバーシティカップ」(サッカーによる交流社会空間)に発展、競技性スポーツとならぶ社会性スポーツの大きな流れをつくろうとしています。

現場の必要から生まれ社会に広がっていった事業・活動としては、住宅政策や若者政策の提案、若者の住宅問題調査、ステップハウスの実験事業、ダンスチーム「ソケリッサ!」、路上文学賞、ギャンブル依存症問題の調査・提言、新たな仕事づくりをめざすシビックエコノミー運動などがあります。

このように基金の事業・活動は、ホームレスの人が問題解決の当事者になれる「自助型の応援」を起点に、多様でありながら一つひとつが社会に広がろうとしています。

10周年へ、寄り合える場をつくりたい

第9期も、ホームレスの人への情報提供、健康など多様な相談、仕事応援、スポーツ・文化などの日常活動に加え、上記のような社会に働きかけていく事業・活動を行いました。

こうした多面的で社会的な活動ができますのは、1,109人の登録ボランティア、2,744人の寄付参加者のみなさま、多くの団体や企業の方々のご協力、ご参加をいただけるからです。私たちの事業・活動を応援し参加してくださる多くの方々、また、活動を必要としてくれた社会に心より感謝すると同時に、時代の激動に翻弄される社会を“誰にでも出番のある居心地のよい場”にするため全力をつくしたいと思います。

このため基金は、ホームレス当事者を中心に、市民応援会員、寄付参加者、多様なボランティアをはじめとする多くの市民が集う開かれた場として、語り合い議論をし、社会への提案ができ貢献する、ワクワクと楽しい場であり続けたいと願っています。そして、来年10周年にはオフィスの拡張などにより、人々が寄り集える交流の場を、みなさまのお力を借りながらつukれないかと考えています。

どうか、この報告書を読まれ、基金の事業・活動への忌憚のないご意見を、そして、ご参加をいただきますよう心からお願いします。

2016年11月15日

認定NPO法人ビッグイシュー基金理事長



佐野章二

第9期では、生活自立応援に加え、進んでステップハウスの実験、文化・スポーツ活動などを行いました。政策提案では、住宅問題と空き家問題を議論した市民シンポジウム報告書の発行。「ギャンブル依存症」問題では研究会を組織し、二つの調査報告書をまとめました。また新たな「出口≒仕事づくり」でもある「シビックエコノミー」の事例調査や推進会議を開催。さらに、ホームレスサッカーを「ダイバーシティカップ」に発展させました。

当事者が市民とともに問題解決の担い手になれる「自助型の応援」に加えて政策提案などを積極的に社会へ発信したのが第9期の活動でした。

【ホームレスの人々の自立応援事業―情報提供、相談、仕事・就業、クラブ活動など】

定例の夜回りなどで路上生活者への情報提供を継続し、道端交流会やパーティーなどの場と機会を設けました。『路上脱出ガイド』は、図書館やお寺との協力を深め、東京版を3000部増刷しました。月例サロンは仕事・就業、整体、料理などを、当事者とともに企画運営しました。

生活自立応援では健康、法律、依存症などの相談の他、金銭管理、福祉制度へのつなぎを応援。特に住宅では、「ステップハウス」5室、緊急用シェルター2室の実験的運営を進めました。

仕事・就業応援では、雑誌『ビッグイシュー日本版』販売者のサポートを会社と連携し取り組みました。

また、スポーツ・文化活動では、サッカー、英会話、野球、歩こう会、卓球、ボウリング、音楽、カレーなどのクラブ活動を行いました。ダンスチームは新作自主公演に挑戦し、「第4回路上文学賞」には、路上生活者・経験者による29作品が集まり、社会的にも注目されました。

被災地応援では2016年4月の熊本地震を受け、「ビッグイシューくまもとチーム」とともに現地支援団体への応援を呼びかけました。

【ホームレス問題解決の実践的ネットワークと政策提案】

住宅問題では、市民シンポジウムの報告書『市民が考える！若者の住宅問題&空き家活用』（A4判/24p.）を発行。「ギャンブル依存症問題」では、依存症の現状、問題解決の方向を検討した調査レポート『疑似カジノ化している日本』（A4版/32p.）を発行。これを受け精神科医で作家の帚木蓬生さんを代表に「ギャンブル依存症問題研究会」を組織して依存症回復者のヒアリング調査を行い、『ギャンブル依存症からの生還―回復者12人の記録』（A4版/88p.）をまとめました。

そして、若者のホームレス化予防の視点から生まれた新たな「出口≒仕事づくり」を課題とし、市民が社会問題の解決に取り組む場であり、同時にそこを新たな仕事・雇用の場にする「シビックエコノミー運動」の事例を調査しました。また、有力6団体による合宿の推進会議を開き、現状を共有しました。

2016年7月には、従来の参加者に加えシリア難民、ギャンブル依存症者なども参加し第2回「ダイバーシティカップ」を開き、15チーム200人以上が集まり、スポーツによる新たな交流型の社会空間をつくりました。

【ボランティア活動と市民の参加―ボランティア、寄付、そして広報活動】

今期のボランティア登録者は東京574人、大阪455人、札幌から熊本まで各地で約80人、合計1,109人でした。

市民応援会員は398人、企業などの会員は5件。「出会い寄付」など5つの寄付メニュー参加者は704人、任意寄付参加者は1,161人、その他寄付者（チャリボン等）474人、高額寄付2人、市民応援会員を含む寄付参加者は延べ2,744人、会費&寄付額は4,025万円となりました。

広報では、基金便りと通信「希望前線」を各24回発行。このほかソーシャルメディアなどで情報発信し、マスメディアでもギャンブル依存症の調査レポートなどが取り上げられました。

ホームレス当事者や経験者の生活の自立をサポートするために、情報提供、健康や住宅や仕事などの相談、スポーツ・文化活動の応援を行いました。複雑で多様化する相談に対応するため外部との連携の幅を広げるとともに、定例の夜回りや炊き出し回りも続け、それを通して定例サロンや映画会など、当事者の人々が参加し主体となって関われる機会を増やしました。

【何があっても大丈夫―当事者への情報や交流機会などの提供】

路上脱出ガイド

ガイドの発行は2008年1月に始まり、今期は12月に札幌版が改訂されました。

『路上脱出ガイド』は、路上を生き抜く上で必要な炊出しや緊急支援の情報、仕事をしたい時や生活保護の申請など路上脱出に役立つ情報に加え、路上に出ないための予防的な情報も掲載されています。2016年現在、札幌、東京、名古屋、京都、大阪、福岡、熊本の全国7地域で発行され、基金HPから各地のPDF版をダウンロードできます。東京・大阪以外の「ガイド」は、各地域のボランティアが中心となって編集・発行作業が行われ、基金はその印刷費を負担しています。

初版発行以来、東京では63,329部（うち今期4,416部）、大阪では26,291部（同984部）を配布。路上での手渡しや公共図書館、お寺などを通じた配布が広がり、8月には東京版を3,000部増刷しました。インターネットを通じた閲覧も増え、HPに掲載した東京のPDF版にはこの1年間で9,003件のアクセスがありました。



夜回り・道端交流会

ホームレス当事者が各種支援につながる窓口の一つとして、(有)ビッグイシュー日本と合同で月4回の夜回りを継続しました。『路上脱出ガイド』や、クラブ活動、健康相談会などの基金プログラムを掲載した『ビッグイシュー通信』（月2回、大阪のみ発行）を手渡し、情報提供をしました。当事者の交流と楽しみの場である大阪の「道端交流会」では、映画をメインプログラムに開催場所を拡大。夜間緊急シェルターを利用する人などにも呼びかけ、計16回、延べ124人が参加しました。

食料品の提供

大阪では個人の方や「フードバンク関西」から月2回配達される食料品などを、東京では個人の方やUBSグループなどの企業から寄付された食料品を、それぞれ夜回りや事務所を通じて提供しました。

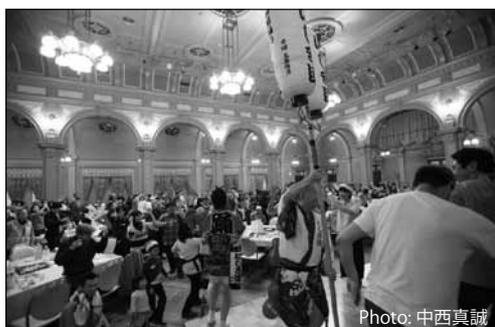
定例サロン

ホームレス当事者が自発的に参加し交流する場づくりとして、東京・大阪で毎月1回「定例サロン」を開きました。ビッグイシュー誌の販売者を中心に仕事や生活に関して当事者が主体となり交流し、議論できる場や、「路上でできる整体」や「川柳づくり」「料理の集い」などを行いました。東京・大阪を合わせ延べ415人が参加しました。

クリスマス・越年の活動

第7回目となる大阪ホームレスクリスマスパーティでは、「路上、踊りだす！—『ソケリッサ!』と“真冬”の阿波踊り」と題し、66人の当事者と134人のボランティア・市民が参加。ホームレスダンスチーム「ソケリッサ!」のステージや、元調理師の当事者による「世界の炊き出し料理クイズ」、大阪で活動する阿波踊り「にしき連」の指導で、会場が一体となった踊りを楽しみました。

越年・越冬の活動では、新宿、池袋と大阪市西成区、岡山、名古屋での越冬の活動に食材費の一部を提供しました。また、年末年始に役所が連休となり支援が手薄になるため、簡易宿泊所、ネットカフェの宿泊費用の半額サポートを行いました。



大阪ホームレスクリスマスパーティ



東京：暑気払い料理サロン

【暮らしを取り戻す——健康・住宅・法律・金銭管理など相談活動、被災地応援】

さまざまな相談の場、定例の個別相談日を設け、相談者の希望によって弁護士や医師、カウンセラーなどの専門家につなぎ、当たりまえの暮らしを取り戻すサポートをしています。

健康・福祉相談

大阪では月1回、府保険医協会と歯科保健研究会の協力を得て、毎回3～4人の内科医師と歯科医に来所いただき、内科と歯科の定期検診を開き、延べ90人が受診しました。服薬や継続的な治療が必要な人には無料・低額診療制度がある総合病院につなぎ、7人が受診に至りました。症状が重篤な場合は、救護施設やケア付き住居サービスを提供する団体と連携するなど、継続して医療にかかれる環境を整えていくサポートを行いました。

東京では8月にボランティアの医師、看護師、歯科医、歯科衛生士、鍼灸師、社会福祉士など計13名の協力を得て、健康相談会を開催。計16人が参加し、体調管理や健康に関する相談の他、必要な方を医療機関につなぎました。

その他、福祉事務所や地域包括支援センターと連携し、1人の認知症の当事者の介護サービス利用と成年後見人制度の手続きをサポートするケースや、薬物依存からの回復を望む方2人に情報提供を行い、福祉と医療につなぐケースもありました。



東京：健康相談会の様子



大阪：歯科相談

住宅相談

日常的には入退居の際の手伝いや、住民票移動、賃貸契約や入居費用支払い時の立ち合いなど、住まいを確保する上での相談とサポートを行いました。また、住居支援を行う団体との連携や、協力的な家主からの初期費用や保証人不要の低家賃の物件情報を提供し、東京の「ふらっとハウス」に続いて、今期は大阪でもステップハウス（10p. 参照）の運営が始まり、あわせて35件の入居サポートを行いました。

法律相談

路上生活者の置かれている状況に詳しい弁護士と連携して4人の当事者の法律相談に対応しました。抹消されてしまっていた戸籍の復活や、過去の多重債務整理に向けて、裁判所への同行や、時効援用のための書類作成サポートなどを行いました。

金銭管理

路上での現金保持の危険を回避するため、住所がないために銀行口座を持っていない人に向けて、希望者には自立に向けた積立金の預りサポートをしました。具体的にはアパート入居の初期費用や、携帯電話の購入など生活再建の経費などの積立を目的に延べ42人の利用がありました。東京ではこのほか、5人の当事者の家計簿の作成を応援しました。

被災地応援

被災地応援では、2016年4月の熊本地震を受けて、現地サポーターの「ビッグイシューくまもとチーム」と情報交換を行い、「ところをつなぐよか隊ネット」など熊本で活動する支援団体への寄付を呼びかけました。

【仕事がしたい——仕事・就業応援プログラム】

雑誌『ビッグイシュー日本版』販売者の応援事業

ホームレス状態の人の再就職の足掛かりとして、ホームレスの人しか販売できない雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売を推奨し、仕事をする上で必要なサポートを行いました。現在、ビッグイシュー誌の販売者は、全国で123人となっています。販売場所への定期的な巡回・ヒアリングなどを行い、健康や住宅等の相談事業につなぎました。また、連携するNPO団体やカフェなどの協力を得て、市民が当事者である販売者と交流できる、地域密着型イベントの企画・運営サポートを行いました。

そのほかに定例サロンの場での熱中症対策講座や、夏場にボランティア手製のスポーツドリンクを配るなど、健康的に販売の仕事が続けられるよう環境を整えました。

就業応援の連携事業

依存症傾向や鬱傾向など、心の問題を抱える人に対して、自立への道すじを考えるきっかけづくりとして、ソーシャルワーカーやカウンセラーなどの専門家と連携し、コーチングやカウンセリングの場を提供しました。また、連携 NPO が実施する清掃や自転車整理の仕事や職業訓練など各種の就職情報の提供を行いました。

そのほか日本 POP サミット協会から講師を招いての、雑誌販売などの仕事に役立つポスター作りを学ぶ「POP 作成講座」の開催や、フットウェアメーカーの協力を得て基金イベントでの「シューズ販売体験会」を開催するなど、多面的に仕事に関わる場と機会を作りました。

ビッグイシュー卒業生・就業者との関わり

住居を得てビッグイシューを卒業した人とも、年賀状のやりとりや、定例サロン、パーティ、クラブ活動などへの参加を呼びかけ継続的に交流しました。また、イベント運営や夜回りなど基金の活動プログラムにも、ボランティアとしての参加がありました。

「働きやすさ」を整える

プロの美容師の協力を得て東京では 2、3 か月に 1 回程度、ヘアカットを実施しました。また、寄付の衣料品や靴、衛生用品の提供で身だしなみを整えること、キャリーバッグや安価な自転車の購入をあっせんすることを通じて、気持ちよく働くためのサポートを行いました。

【生きていてよかった——スポーツ・文化活動プログラム】

ビッグイシュー基金では「スポーツ・文化活動」を重視しています。一人ぼっちになってホームレス状態になった人や路上生活を抜け出した人にとっても、人とのつながりをつくり、生きる喜びや意欲を回復する機会になるからです。9 期は様々なプログラムへのボランティア参加が増え、活動の場が広がっています。なかでもホームレスサッカーは、定例的な練習を続け、そこから多様な社会的不利・困難を抱える当事者がサッカーを通じて参加交流できる「ダイバーシティカップ」(12p. 参照) へと発展しました。

スポーツ活動——ボランティア、当事者の参加の輪が広がる

大阪にある野球部「レッドキャップス」は月 1 回程度の練習に加え、恒例となった定時制高校野球部との交流試合や、ボランティア活動を推進する団体とも連携して、幅広く市民の参加を呼びかけながら合同練習を実施しました。東京では、新たに野球好きな当事者を中心にキャッチボール部が発足し、ボウリングクラブも活動を継続。その他、総合運動施設を活用して様々なスポーツを楽しむ、単発の活動も応援しました。

ホームレスサッカーチーム「野武士ジャパン」は東京・大阪で月 1～2 回、ボランティアや当事者を交えて練習を実施しました。大阪では障害者支援を行う団体と連携し、精神障害や欠損障害の当事者が参加するチームと合同で練習し、東京ではダイバーシティカップに参加した、精神疾患の人や、児童養護施設出身者で構成されたチームと練習するなど、多様な人がスポーツを通じて交流する場をつくりました。



野武士ジャパン



ビッグイシュー・レッドキャップス

文化活動——自主的な活動のひろがり

大阪では、2007年から続くまち歩きクラブ「歩こう会」が月例の活動を重ね、84回目の開催を迎えました。また音楽クラブは8期から重ねてきた練習の成果を、2015年9月の周年記念サロンで披露しました。

東京では英語クラブがボランティア講師の協力を得て毎月2回、計21回の「路上で使えるイングリッシュ」の勉強会を行いました。外国の方向けの道案内ワードやアニメソングの英語版などを学びました。カレー部は1年で7回活動し、参加者が「夏のスタミナにんにくカレー」などとレシピ決め、買い出し、調理を行い、事務所で当事者やボランティアにふるまいました。調理の楽しさを知り、自宅でも積極的に自炊を始める当事者の方も現れはじめました。



第4回路上文学賞 受賞作品集



歩こう会



英語クラブの様子

コンテンポラリーダンスチーム「新人Hソケリッサ!」は、リーダーでプロのダンサーであるアオキ裕キさんが2014年に一般社団法人アオキカクを立ち上げて以来、活動の幅を広げています。9期には、鳥取県で行われた「鳥の演劇祭」や山形で行われた芸術祭や、大阪ホームレスクリスマスパーティなどでの各地公演に加え、2016年6月の新作自主公演には定員100人を超す来場がありました。またブラジルリオ五輪・パラリンピックにあわせて開催された、アートでの貧困問題解決を目指す各国の団体の国際交流会にも招待され、メンバー3人がダンスと活動報告をしました。

路上文学賞は第4回目が開催されました。作家の星野智幸さん、カメラマンの高松英昭さんを中心とした「路上文学賞実行委員会」と連携し、作品の募集や応募者との連絡と仲介を行いました。全国の路上生活者・その経験者から集まった29作品の中から大賞・佳作計6作品が選定され、大阪のホームレス・クリスマスパーティの場で受賞式を開きました。『第4回路上文学賞受賞作品集』はビッグイシュー販売者を通じ路上で配布され、受賞作は路上文学賞オフィシャルHPでお読みいただけます。

<http://www.robun.info/>

【くらしの基盤をつくる ―― 住宅政策提案事業とステップハウスの実験的事業】

若者の住宅問題 & 空き家活用シンポジウム報告書の発行

基金では住宅問題の改善を「貧困問題解決の要」と考え、6期に設けた「住宅政策提案・検討委員会」（平山洋介委員長）とともに住宅政策の提案・調査の活動をしてきました。9期では、前8期に明らかにした低所得層の若者の住宅問題と、空き家問題のマッチング可能性を検討した市民シンポジウムの報告書「大転換！ 住宅問題―若者の住宅問題 & 空き家活用シンポジウム報告書」（A4版/24p.）を発行しました。配布を希望される市民の方や住宅問題に取り組む団体に送付し、これまでに2,469部を配布しました。



報告書表紙

※シンポジウム報告書をはじめ、住宅政策提案事業の冊子3種は、基金HPよりダウンロードできます。

「空き家」と「住宅困窮者」のマッチングモデルを模索 ―― ステップハウスの実験的事業

これまでの活動を通じて、住宅困窮者やホームレス化の危険がある若者の住宅問題の解決には「空き家」を含む、民間の住宅ストック活用が一つの鍵になることが見えてきました。同時にこの資源を、必要とする人に、誰が、どのようにマッチングするのか？という点が課題として浮かび上がりました。

このモデルを模索するため、基金では9期、ホームレス状態の人が安価で利用でき、利用料の一部を積立金にして、入居期間中に次のステップへの資金も積み立てられる「ステップハウス」の運営を実験的に進めました。

東京では一般社団法人「つくろい東京ファンド」（代表理事・稲葉剛）と業務提携し、新宿区の物件「ふらっとハウス」内の2室を、ステップハウスとシェルターとして運用しました。ステップハウス2人、シェルターでは7人が利用し、ここをベースに身分証の取得や、健康保険加入などのサポートも行いました。

大阪では協力的な家主の方から前8期に「空きマンションを活用してほしい」という申し出を受け、9期に開設したステップハウス「悟楽堂」4室とシェルター1室を運用。ステップハウス8人、シェルター3人、計11人が利用しました。これは利用料15,000円のうち、5,000円を家賃、1万円を積立金とする仕組みです。利用期間は6ヶ月です。月例の利用者会議では共用部分の掃除の分担など、居住ルールを決め、公共料金の支払い方や、自炊や節約の方法を入居者間で教えあうなど、自治的な利用を進めました。銀行口座の開設、免許証再発行、国民年金受給の手続きなど、生活再建に向けた各種手続きをサポートし、1人が就労自立し、6人が積立金を元手に一般借家、シェア住居、簡易宿泊所などに転居しました。



鍋を囲んでの利用者会議



東京「ふらっとハウス」



共用部分の清掃

【新しい仕事をつくる——若者をホームレスにしないために】

「出口≒仕事づくり」の可能性——シビックエコノミー調査事業

『若者応援プログラム集』の発行などから見えてきたのは、若者ホームレスを中心とする社会的不利・困難を抱える若者のための「出口≒仕事」の極端な不足でした。そこで、市民が社会問題の解決に挑戦する活動や場を、同時にそこを新たな仕事・雇用の場にもする「シビックエコノミー」の試みに注目し、調査をしてきました。8月にはこの試みを担っている団体によびかけ、泊り込みで検討会議を開きました。ケアプロ（簡易市民検診システム）、マドレボニータ（産後ケア）、コミュニティタクシー（市民乗合いタクシー）、ゴジカラ村（多世代交流空間）、六丁目農園（障害者が長所を生かして働くレストラン）、シアターキノ（市民出資型映画館）の6団体が参加し、現状の課題や今後の可能性、連携のアイデアなどを議論し、共有しました。

【依存症からの脱却——ギャンブル依存症問題の調査・提案事業】

ホームレス状態にいたるきっかけであり、そこからの脱出を阻む足かせでもあり、また、自殺予防、家庭崩壊予防の視点からもギャンブル依存症の問題に取り組んでいます。前8期には、米本昌平副理事長を中心に、「ギャンブル依存症問題研究グループ」を組織し検討しました。

この研究を、2015年10月、依存症の現状、誘発する構造と、問題解決の方向を明らかにしたレポート『疑似カジノ化している日本—ギャンブル依存症はどういうかたちの社会問題か？』（A4版/32p.）として発行しました。報告書は、依存症問題に取り組む団体のシンポジウムや、勉強会での資料として活用され、これまでに3,480冊を配布しました。報告書完成発表記者会見には4社が参加し、テレビや雑誌など5件のマスメディアに取り上げられました。

さらに、2016年3月、作家で精神科医の帚木蓬生さんを代表に、三宅隆之さん（セレンティパークジャパン代表、奈良）、佐々木広さん（グレイス・ロード代表、山梨）、田上啓子さん（女性専用施設ヌジュミ施設長、横浜市）をメンバーに迎え、3度にわたる研究会を開きました。ここでの議論を反映し、依存症からの回復者の方々に協力を得て、ヒアリング調査を行い、その内容を8月に報告書『ギャンブル依存症からの生還—回復者12人の記録』（A4版/88p.）としてまとめました。報告書には当事者の方や家族、支援者が実際に活用できる自助グループ292団体をはじめ、計365の相談先一覧も収録し、これまでに1,637部を配布しました。



『疑似カジノ化している日本—ギャンブル依存症はどういうかたちの社会問題か？』



研究会の様子



『ギャンブル依存症からの生還—回復者12人の記録』

※報告書2種は、無料（送料のみご負担ください）でお送りできます。①お名前 ②ご住所 ③冊子名 ④冊数を明記頂き、tokyo@bigissue.or.jp までお問い合わせ下さい。

【ダイバーシティカップ（スポーツによる社会的包摂の空間づくり）

——人と人がつながれる社会性スポーツの展開へ】

前8期に設けたスポーツ・フォー・ソーシャルインクルージョン実行委員会（社会的包摂スポーツ委員会、略称SFS委員会）が主体となり、2015年12月に第1回ダイバーシティカップの報告会「フットサルコートシンポジウム」や、2016年7月に第2回大会を開催しました。同大会はクラウドファンディング（Ready For）での91人の資金参加（108万8,000円）、47人のボランティアの応援で開催することができました。大会には、「ホームレスの人」だけでなく、難民、ひきこもり、発達障害、うつ病、ギャンブル依存症、被災者、社会的養護施設出身者、生活保護受給者など、「社会から排除されがちな人」からなる15チーム207人（応援者を含め合計350人）が参加し、スポーツを通じての交流と語り合う場を持つことができました。大会をきっかけに参加者同士の交流や、スポーツ以外にも共同してプロジェクトを企画するといった動きが生まれ、ビッグイシュー基金が開くホームレスサッカーの定例練習の場（東京・大阪）にもこれまで以上に多様な人々が参加するようになりました。

「ダイバーシティカップ」の動きは、2020年のオリンピックを見据えたときに、競技性のスポーツとならんで、スポーツとまったく無縁な「社会から排除されがちな人々」が「つながる」社会性スポーツの大きな潮流になる可能性があり、SFS委員会と共同して、今後の活動の展開を検討しています。具体的には、香港で開かれたホームレスサッカーのアジアカップへの視察や、来期には「1つのボールが人生を変える」と題したシンポジウムに、英国のホームレスワールドカップ事務局から登壇者を招き、日本サッカー協会も後援したイベントを実施します。当事者支援の現場に「当事者・支援者」の枠をさらに広げた、楽しみながら人々が元気になれる社会空間をつくらせていきたいと考えています。

※ 第1回、そして第2回のダイバーシティカップの報告書は、無料（送料のみご負担ください）でお送りできます。

①お名前 ②ご住所 ③冊子名 ④冊数をそれぞれ明記の上、tokyo@bigissue.or.jp までお問い合わせ下さい。また、基金HPからもダウンロード可能です。



Photos: 横関一浩

【参加のチャンスをつくる―ボランティア参加プログラム】

今期のボランティア登録者数は、東京 574 人、大阪 455 人の他、札幌、仙台、立川、横浜、川崎、三鷹、名古屋、京都、岡山、福岡、熊本、鹿児島などの各地サポーター約 80 人、あわせて合計 1,109 人でした。また 9 期は 5 人の学生インターンを受け入れ、半年～1 年の契約期間中に、ホームレス問題に主体的に関わる場と機会を提供しました。

大阪ではボランティア同士の交流の場である「ボランティアカフェ」から派生して、高槻、尼崎などの地域のコミュニティスペースで雑誌『ビッグイシュー日本版』の読書会が開かれ基金も協力しました。

定例の参加プログラムである、月 2 回の会報誌発送作業やフットサル練習にも多くのボランティアの方の参加をいただきました。その他にも熱中症対策ドリンク作成、おにぎり作り、月例サロンでのランチ調理補助など、多様な形の参加がありました。



学生インターンと



東京：ボランティア説明会の様子

（ボランティア説明会―東京・大阪で毎月 1 回開催）

ホームレス問題やビッグイシュー基金の活動をより多くの人に知っていただくために、東京・大阪で定例の説明会を開催しています。説明会への参加後、希望者にはボランティアメーリングリストに入っただき、定期的にボランティア情報をお伝えしています。

◇東京：第 2 土曜日 13 時～（場所：東京事務所）

◇大阪：第 2 または 4 土曜日 15 時～（場所：大阪事務所）

※ ボランティア説明会への参加を希望される方は、ビッグイシュー基金（メール：大阪 info@bigissue.or.jp、東京 tokyo@bigissue.or.jp、電話：大阪 06-6345-1517、東京 03-6380-5088）までご連絡をお願いします。

【応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付―寄付参加プログラム】

（市民応援会員）

にっこり応援会員（298 人）／ひとり立ち応援会員（100 人）計 398 人（会費金額計 947 万円）／企業・団体 サポーター計 5 件（会費金額計 225 万円）→個人、団体合計 1,172 万円

（メニュー寄付への参加）

出会い（278 人）／つながりウォーク（233 人）／実践応援ラン（92 人）／社会包摂マラソン（67 人）／市民信頼社会（34 人）計 704 人（メニュー寄付金額計 1,231 万円）

（任意寄付）

任意寄付は 1,161 人、遺贈の寄付は 2 人、その他寄付（チャリボン等）は 474 人、計 1,637 人（任意他寄付金額計 1,622 万円）

市民応援会員と寄付参加者は合計延べ 2,744 人、金額では合計 4,025 万円となりました。前 8 期と比較して市民応援会員と寄付参加者は 125 人増えましたが、金額では大口寄付が減った分、1,274 万

円の減少となりました。

(物品寄付)

Facebook やメーリングリストなどを通じて寄付募集を行いました。継続的にサポートいただいている企業や連携団体、たくさんの市民の方から食料品や衣料品、医薬品、生活用品やタオルなどの物品の寄付がありました。それらは随時当事者の方に提供しました。

古本で「ホームレスの自立を支援」——チャリボン

読み終わった書籍やDVDを株式会社バリューブックスにお送りいただくことで、社会課題解決に取り組むNPOを支援できる仕組み、「チャリボン」。2013年4月の開始以来、2016年8月末までに1,433人の方から古本をお送りいただき、買い取り相当額の2,665,265円のご寄付をいただきました。チャリボンの仕組みや古本のご寄付を通じての社会参加については以下のサイトをご覧ください。

<http://www.charibon.jp/>

【広報——webを通じたアクセスチャンネルを増加】

広報活動としては、基金便りや基金通信「希望前線」を各24回発行の他、ホームページ、ビッグイシューオンライン、ソーシャルメディアによる情報発信とともに、検索サイトで「ホームレス」、「ギャンブル依存症」などの単語から基金HPに誘導する広告文を表示する、グーグル社提供のシステムを継続的に運用しました。マスメディアにも、スポーツ文化活動の取り組みや、ギャンブル依存症問題の報告書などが取り上げられました。

メディア掲載

(新聞)

- 2015年 9月10日 琉球新報 「路上文学賞」についてインタビュー
- 2015年 9月12日 大阪日日新聞 「路上文学賞」についてインタビュー
- 2015年 11月17日 朝日新聞(夕刊) 「ギャンブル依存症問題」について
- 2015年 12月21日 朝日新聞(夕刊) 「路上文学賞」について紹介
- 2016年 3月 2日 産経新聞 「ギャンブル依存症問題研究会」の発足と政策提言について
- 2016年 4月21日 朝日新聞 「ビッグイシュー名古屋ネット」10周年とイベント紹介

(雑誌)

- 2015年 9月15日 埼玉の社会福祉広報SAI 「野武士ジャパン」についてインタビュー
- 2016年 2月16日 週刊エコノミスト 報告書「疑似カジノ化している日本」について
- 2016年 3月10日 季刊Be! 報告書「疑似カジノ化している日本」について
- 2016年 6月 1日 福祉おおさか ビッグイシュー基金の取り組みについて紹介
- 2016年 7月22日 週刊金曜日 「ギャンブル依存症問題」について(前編)
- 2016年 7月29日 週刊金曜日 「ギャンブル依存症問題」について(後編)
- 2016年 8月15日 月刊PEN 「ソケリッサ!」の活動について紹介

【助成金】

公益財団法人パブリックリソース財団

【企業・団体寄付】

株式会社北洋舎クリーニング／BNP パリバ・グループ／浄土真宗厳念寺／ドイツ銀行グループ／UBS
グループ（UBS 証券株式会社、UBS 銀行東京支店、UBS アセット・マネジメント株式会社）／株式会
社北大路書房／NMC ギャラリー & スタジオ／キーン・ジャパン合同会社／ゾーホージャパン株式会社
／有限会社岩尾商事／牧浦歯科医院／虹色音楽館

【寄付サイトからの寄付】

公益財団法人パブリックリソース財団（ギブワン、<http://www.giveone.net/>）

株式会社バリュブックス（チャリボン、<http://www.charibon.jp/>）

【クラウドファンディング協力企業】

READYFOR 株式会社（READYFOR、<https://readyfor.jp/>）

【物資の寄付】

UBS グループ（UBS 証券株式会社、UBS 銀行東京支店、UBS アセット・マネジメント株式会社）（医薬品、
食品、衣料など）／認定 NPO 法人フードバンク関西（食品）／キーン・ジャパン合同会社（靴）／特
定非営利活動法人アユス仏教国際協力ネットワーク（タオル、テレホンカード）／株式会社リヴァ（食
品）／ピープルツリー／フェアトレードカンパニー株式会社（衣類）／目白大学人間学部人間福祉学科（タ
オル）／株式会社ディノス・セシール（水）／大塚製薬株式会社（スポーツ飲料用粉末）／ポートピア
グリーンチーム（衣類）

【各地のサポーター組織】

ビッグイシューさっぽろ／仙台ビッグイシューソサイエティ／NPO 法人萌友／NPO 法人仙台夜まわ
りグループ／NPO 法人川崎水曜パトロールの会／NPO 法人さなぎ達／NPO 法人さんきゅうハウス／
びよんどネット／金沢カトリック教会平和の会／ビッグイシュー名古屋ネット／NPO 法人釜ヶ崎支援
機構／ビッグイシュー日本京都事務所（社団法人関西厚生協会）／NPO 法人岡山・ホームレス支援き
ずな／ビッグイシュー福岡サポーターズ／ビッグイシューくまもとチーム／ビッグイシューかごしまサ
ポーターズ

【その他】

グーグル株式会社／株式会社セールスフォース・ドットコム

決算報告

9期は寄付、市民応援会費からの収入などをあわせた経常収益は4,259万円となりました。大口寄付のあった第8期と比べ1,274万円下回りました。9期の経常収支差額は△608万円となりました。しかし8期の大口の寄付参加により1,292万円の繰越金があったため、次期繰越額は684万円となりました。

この繰越金は、①市民的交流の場作り、②スポーツによる社会的包摂活動、③ギャンブル依存症対策、④新しい仕事づくり、などの事業に活用させていただきたいと思っています。

【活動計算書 2015年9月1日から2016年8月31日まで】

科目	金額 (単位:円)	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	150,000	
賛助会員受取会費	11,720,000	11,870,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	28,531,229	28,531,229
3. 受取助成金等		
受取助成金	266,070	266,070
4. 事業収益		
生活自立応援事業収益	834,615	
政策提案事業収益	972,834	1,807,449
5. その他収益		
受取利息	1,114	
雑収益	115,232	116,346
経常収益計		42,591,094
II 経常費用		
1. 事業費		
人件費		
給料手当	11,265,627	
臨時雇賃金	4,034,078	
法定福利費	1,776,848	
通勤費	1,177,491	18,254,044
その他経費		
業務委託費	1,908,200	
諸謝金	1,835,853	
印刷製本費	1,443,790	
会議費	2,087,020	
旅費交通費	5,023,956	
通信運搬費	1,820,527	
消耗品費	1,027,281	
家賃(光熱費含)	2,979,696	
賃借料	1,709,014	
保険料	247,840	
諸会費	40,000	
租税公課	4,950	
研修費	44,716	
広報費	3,110,400	
会報費	2,829,680	
寄付金	210,000	
支払手数料	334,977	
雑費	334,728	26,992,628
事業費計		45,246,672
2. 管理費		
人件費		
給料手当	515,423	
臨時雇賃金	64,581	
法定福利費	76,238	
通勤費	46,564	
福利厚生費	38,880	741,686
その他経費		
印刷製本費	251,866	
会議費	129,382	
旅費交通費	457,186	
通信運搬費	338,923	
消耗品費	109,762	
家賃(光熱費含)	156,826	
賃借料	219,022	
諸会費	10,800	
租税公課	1,800	
研修費	8,620	
支払手数料	584,264	
雑費	38,772	2,307,223
管理費計		3,048,909
経常費用計		48,295,581
税引前当期正味財産増減額		△5,704,487
法人税、住民税及び事業税		371,900
当期正味財産増減額		△6,076,387
前期正味財産額		12,921,048
次期正味財産額		6,844,661

【貸借対照表 2016年8月31日現在】

科目	金額 (単位:円)		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	7,358,162		
未収金	1,055,794	8,413,956	
2. 固定資産			
		0	
資産合計			8,413,956
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金	777,580		
預り金	88,215		
当事者預り金	703,500	1,569,295	
2. 固定負債			
		0	
負債合計			1,569,295
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		12,921,048	
当期正味財産増減額		△6,076,387	
正味財産合計			6,844,661
負債及び正味財産合計			8,413,956

【財産目録 2016年8月31日現在】

科目・摘要	金額 (単位:円)		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手元現金	574,189		
普通預金(三菱東京UFJ銀行豊島支店)	1,392,476		
普通預金(三菱東京UFJ銀行新宿支店)	350,000		
郵便振替	2,995,122		
普通預金(ゆうちょ銀行)	1,903,736		
普通預金(みずほ銀行)	142,639		
未収金			
賛助会員受取会費未収金(カード利用)	170,000		
ダイバーシティ事業未収金	885,794	8,413,956	
2. 固定資産			
		0	
資産合計			8,413,956
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金(南ビッグイシュー日本)	777,580		
預り金(源泉所得税)	88,215		
当事者預り金(生活自立積立金)	703,500	1,569,295	
2. 固定負債			
	0	0	
負債合計			1,569,295
正味財産			6,844,661

【計算書類の注記】

1、重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準によっています。

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

なお、当法人は消費税免税事業者です。

(2) 事業費管理費共通経費の按分

共通経費は業務の従事割合によって按分しています。

2、事業費の内訳

事業費内訳	生活自立応援事業			ホームレス問題等社会問題解決のための政策提案事業				活動への当事者や市民の参加応援事業	事業費計
	生活自立応援	就業応援	スポーツ・文化活動応援	若者応援ネットワーク	住宅政策提案	ギャンブル依存症問題	ダイバーシティ		
人件費									
給料手当	6,209,974	826,157	492,759	985,245	577,783	1,182,699	331,392	659,618	11,265,627
臨時雇賃金	2,210,255	0	38,584	13,378	0	33,000	1,603,017	135,844	4,034,078
法定福利費	986,619	124,267	76,703	151,823	92,933	176,569	61,950	105,984	1,776,848
通勤費	662,516	45,456	36,951	68,018	38,750	70,763	185,620	69,417	1,177,491
人件費計	10,069,364	995,880	644,997	1,218,464	709,466	1,463,031	2,181,979	970,863	18,254,044
その他経費									
業務委託費	972,000	0	0	350,000	60,200	476,000	30,000	20,000	1,908,200
諸謝金	81,137	20,000	40,000	337,274	22,274	1,140,000	187,648	7,520	1,835,853
印刷製本費	119,550	0	35,000	48,000	134,500	930,250	55,530	120,960	1,443,790
会議費	768,356	30,714	134,274	145,391	2,374	73,840	910,238	21,833	2,087,020
旅費交通費	950,013	171,705	27,807	627,658	125,054	1,466,191	1,402,247	253,281	5,023,956
通信運搬費	55,668	8,737	3,056	14,348	4,640	12,556	80,615	1,640,907	1,820,527
消耗品費	349,517	2,963	17,868	5,094	45,358	7,303	271,140	328,038	1,027,281
家賃（光熱費含）	1,662,357	156,826	125,461	156,826	125,461	156,826	376,383	219,556	2,979,696
賃借料	785,684	4,300	339,960	49,680	0	3,580	517,410	8,400	1,709,014
保険料	29,400	0	0	0	0	0	218,440	0	247,840
諸会費	40,000	0	0	0	0	0	0	0	40,000
租税公課	3,600	1,350	0	0	0	0	0	0	4,950
研修費	3,642	0	2,052	5,160	820	13,729	3,000	16,313	44,716
広報費	0	0	0	0	0	0	0	3,110,400	3,110,400
会報費	0	0	0	0	0	0	0	2,829,680	2,829,680
寄付金	210,000	0	0	0	0	0	0	0	210,000
支払手数料	17,112	216	864	4,752	2,960	8,208	19,132	281,733	334,977
雑費	234,490	34,700	23,500	0	0	26,986	15,052	0	334,728
その他経費計	6,282,526	431,511	749,842	1,744,183	523,641	4,315,469	4,086,835	8,858,621	26,992,628
事業費計	16,351,890	1,427,391	1,394,839	2,962,647	1,233,107	5,778,500	6,268,814	9,829,484	45,246,672

3、当事者預り金（生活自立積立金）の内訳

科目	期首残高	当期預り	期末残高
当事者預り金（生活自立積立金）	877,900	△ 174,400	703,500
合計	877,900	△ 174,400	703,500

4、役員及びその近親者との取引

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
家賃（光熱費含）	3,136,522	3,136,522
広報費	3,110,400	3,110,400
会報費	2,829,680	2,829,680

監査報告

1 監査の方法の概要

業務執行については、代表理事等から、現在会員数、活動内容等を聴取し、財産の状況については、損益計算書、貸借対照表の開示及び説明を受けました。他方、適宜、総勘定元帳、入金伝票、領収書、通帳の写し、郵便振替票等につき検討を加えました。

2 監査の結果

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金の業務報告及び決算報告について、2015（平成27）年9月1日から2016（平成28）年8月31日までの監査を行った結果、客観的資料にもとづき明瞭かつ正確であって、適法であることを認めます。

なお、業務または財産に関して、指摘すべき、不正の行為または法令、定款違反の重大事実はありません。

2016（平成28）年10月17日

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金監事

木原万樹子



社会参加のメニュー寄付

2012年7月、認定NPO法人となったため、基金への寄付は税制優遇されます。ご寄付をいただくと、納められた所得税から寄付額の4割弱が返金されます。(返金の上限額は納付所得税の25%まで) 公のことはすべて国が税で賄うという建前を変え、公を認定NPO法人にも担ってもらい、その分、税の一部を返金する、という仕組みです。公共の仕事を「税=国家」にするのか? 「寄付=NPOにするのか?」を選んで決めるのは、納税し寄付するあなたです。

市民の寄付で社会を変える時代がやってきたのです。寄付による社会変革、あなたも参加しませんか。

税制優遇の対象です。「(寄付金合計額 - 2千円) × 40%」が税額から控除

(確定申告が必要) できます。*雑誌送付などの特典はありません



出合い寄付

5,000円 / 1口 (返金額は 1,200円)



つながりウォーク寄付

10,000円 / 1口 (返金額は 3,200円)



実践応援ラン寄付

20,000円 / 1口 (返金額は 7,200円)



社会包摂マラソン寄付

50,000円 / 1口 (返金額は 19,200円)



市民信頼社会寄付

100,000円 / 1口 (返金額は 39,200円)

- 任意額寄付
事務手続き上 1,000円からの受付となります。
- マンスリー寄付
月額 1,000円 × 1口～。
(HP から受け付けています)
- 法人寄付
損金算入限度額の枠が拡大されます。
- 遺贈・遺産寄付
寄付された相続財産には相続税がかかりません。
* 遺贈、遺産寄付をお考えの方には、当基金の顧問弁護士、
会計士が法律や税務などの相談をさせていただきます。
お気軽に電話・Eメールでご連絡ください。

*ご寄付をいただいた皆さまには、毎月発行のニュースレター、
年次報告書(年1回)をお送りします。

市民応援会員 特典があります。(税制優遇の対象外)



にっこり応援会員 年会費：15,000円 (誌代相当分を含む)

【特典】 年次報告書(年1回)の送付

「ビッグイシュー基金通信」掲載の『ビッグイシュー日本版』1冊1年分の送付 & 最新号にお名前を掲載



ひとり立ち応援会員 年会費：50,000円 (誌代相当分を含む)

【特典】 年次報告書(年1回)の送付

「ビッグイシュー基金通信」掲載の『ビッグイシュー日本版』1冊1年分の送付 & 雑誌に1年間お名前を掲載、ビッグイシュー基金パーティにペアでご招待(年1回)

企業・団体「社会再生」サポーター 特典があります。(税制優遇の対象外)

- キャリア再形成・サポーター会員 年会費：250,000円
- 社会復帰・サポーター会員 年会費：500,000円
- 社会再生・サポーター会員 年会費：1,000,000円

*『ビッグイシュー日本版』1冊を1年分送付、誌面にお名前掲載などの特典あり *年会費に誌代相当分を含む

<振込み> 郵便振替：口座番号 00960-6-141876 口座名義 NPO 法人ビッグイシュー基金
お振込みの際は寄付・会員の別、連絡先(お名前、郵便番号、ご住所、電話番号)を明記ください。
<クレジットカード> ビッグイシュー基金のホームページ (<http://www.bigissue.or.jp>) からご利用いただけます。

銀行での振込みをご希望の場合は、大阪事務所(06-6345-1517)までお問い合わせ下さい。

※ 個人の方のご寄付の領収書は1月～12月入金分をまとめて翌年1月下旬に発行・送付させていただきます。
(これを、確定申告時に提出していただくと納付税額から一定額が返金されます)

ビッグイシュー基金は、有限会社ビッグイシュー日本（※）を母体に2007年9月に設立した、ホームレスの人々の自立を応援する非営利団体です。2012年7月1日に認定NPO法人となり、当基金への寄付は税制優遇されることになりました。ビッグイシュー基金は①ホームレスの人々の自立応援、②ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案、③市民のボランティアや社会参加、という3つの柱の活動を通じて、貧困問題と社会的排除という氷山の頂点にあるホームレス問題の解決に取り組みます。それらを通して市民、ホームレスの人とともに、路上生活者だけでなく生活困窮者にも応援を広げながら、誰にでも居場所と出番のある包摂社会の形成をめざします。

「機会」豊かな市民信頼社会を―ビッグイシュー基金が目指すもの

ビッグイシュー基金は、自立の応援、モノやおカネではない「チャンス」の提供、ホームレスの人をパートナーにする、という考え方をもち、多くのNPO、企業や政府とも協力しホームレスの人々の「自立」、「自助型の応援」を活動の基本方向としています。

また、市民応援会員、市民寄付者などを中心に、多くのボランティアや市民とともに、市民同士の協力と共同を促進し、市民が当事者になれる活動を行い、再チャレンジしやすい「機会の豊かな」市民信頼社会の形成に貢献したい、と考えています。

そして、上記の3つの基本応援プログラムに加え、ホームレスの人々が望めば、サッカー、文学賞などスポーツ・文化のクラブ活動への参加もできます。そして、当事者として、生きる喜びや誇りを回復し、自ら問題解決の担い手になってもらいたいと考えています。

団体概要	
□ 名称	認定NPO法人 ビッグイシュー基金
□ 設立	2007年9月設立、2008年4月内閣府よりNPO法人の認証、2012年7月認定NPO法人格取得
□ 所在地 [事務局]	〒530-0003 大阪市北区堂島2丁目3-2 堂北ビル4階 Tel 06-6345-1517 Fax 06-6457-1358 HP : http://www.bigissue.or.jp E-mail : info@bigissue.or.jp
	[東京事務所] 〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-5 シンカイビル201号室 Tel 03-6380-5088 Fax 03-6802-6074
□ 役員	理事長 佐野 章二 (有限会社ビッグイシュー日本共同代表) 副理事長 米本 昌平 (東京大学客員教授) 理事 井上 英之 (慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘准教授/ NPO法人ETICプロデューサー) 枝元 なほみ (料理研究家) 蛭間 芳樹 (野武士ジャパンコーチ/世界経済フォーラム ヤング・グローバル・ リーダー 2015) 水越 洋子 (『ビッグイシュー日本版』編集長)
監事	木原 万樹子 (木原法律事務所弁護士)
相談役	雨宮 処凛 (作家)
□ スタッフ	中原加晴 長谷川知広 吉武華子 池田真理子 中田彩仁 高野太一 粟原奈津子 川上翔 林直美

(※) 有限会社ビッグイシュー日本とは？

ビッグイシュー日本は、「ホームレスの人々の救済ではなく仕事を提供し、自立を応援する」ことを目的に活動している有限会社です。ホームレスの人々の自助と自立を促すために雑誌を制作し、路上で彼らに独占的に販売してもらい、その売り上げの50%以上を収入にしようという仕組みをつくっています。03年9月から16年8月までの13年間で1,706人が販売者に登録し、189人が仕事を獲得して自立しました。また、累計741万冊を販売、10億9,431万円の収入をホームレスの人たちに提供してきました。



2016年11月15日発行

認定NPO法人ビッグイシュー基金

(大阪事務所) 〒530-0003 大阪市北区堂島2丁目3-2堂北ビル4F

TEL: 06-6345-1517 FAX: 06-6457-1358

(東京事務所) 〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室

TEL: 03-6380-5088 FAX: 03-6802-6074

E-mail: info@bigissue.or.jp URL: <http://www.bigissue.or.jp>

デザイン (株) くとうてん